



TITLE:

# 京大東アジアセンターニューズレ ター 第636号

AUTHOR(S):

京都大学経済学研究科東アジア経済研究センター

---

CITATION:

京都大学経済学研究科東アジア経済研究センター. 京大東アジアセン  
ターニューズレター 第636号. 京大東アジアセンターニューズレター  
2016, 636

ISSUE DATE:

2016-09-12

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/216582>

RIGHT:

2016 年 9 月 12 日発行 第 636 号

## CONTENTS

「中国経済研究会」のお知らせ.....	2
アジア自動車シンポジウム 2016 のお知らせ.....	3
即身仏を訪ねてー②日本編：新潟エリア 小島正憲 .....	4
【中国経済最新統計】 .....	12



## 「中国経済研究会」のお知らせ

---

2016年度第5回（通算第59回）の中国経済研究会は下記の要領で開催することになりましたので、ご案内いたします。大勢の方のご参加をお待ちしております。

記

時 間： 2016 年 10 月 18 日(火) 16：30－18：00

場 所： 京都大学吉田キャンパス・法経済学部東館地下1階  
みずほホール AB

テーマ： 「人民元国際化のプロセスについて」

報告者： 蓋艶梅(北京行政学院副教授)

注：本研究会は原則として授業期間中の毎月第3火曜日に行いますが、講師の都合等により変更する場合があります。2016度における開催(予定)日は以下の通りです。

前期：4月19日（火）、5月17日（火）、6月21日（火）、7月19日(火)

後期：10月18日（火）、11月15日（火）、12月20（火）、1月17日（火）

（この研究会に関するお問い合わせは劉徳強（[liu@econ.kyoto-u.ac.jp](mailto:liu@econ.kyoto-u.ac.jp)）までお願いします。なお、研究会終了後、有志による懇親会が予定されています。）



## アジア自動車シンポジウム 2016 のお知らせ

---

主催

京都大学東アジア経済研究センター

共催

東京大学ものづくり経営研究センター

東京大学社会科学研究所現代中国研究拠点

京都大学人文科学研究所附属現代中国研究センター

後援

京都大学東アジア経済研究センター支援会

### アジア自動車シンポジウム 2016

# 新興国における部品現地調達を考える

—部品国産化ライフサイクルを一つの視座として—

■京都会場 2016 年 11 月 5 日(土) 13 時

京都大学経済学部三番教室(法経東館 2 階)

■東京会場 2016 年 11 月 7 日(月) 13 時

京都大学東京オフィス(新丸の内ビルディング 10 階)

#### 13:00-13:20 挨拶

東京大学ものづくり経営研究センター ディレクター 新宅 純二郎  
東京大学社会科学研究所現代中国研究拠点長 丸川 知雄

#### 13:20-14:40

問題提起: 部品国産化ライフサイクル 京都大学 経済学研究科 教授 塩地 洋

#### 14:40-15:10

サプライチェーンの複雑化と深層の現地化 東京大学 経済学研究科 教授 新宅 純二郎

#### 15:30-16:00

日系サプライヤーの現地化基本戦略 立命館大学 経営管理研究科 准教授 佐伯 靖雄

#### 16:00-16:30

現地 2 次サプライヤーの技術能力—深化を制約するか 桜美林大学 経営学研究科  
教授 井上 隆一郎

#### 16:30-16:50

総括コメント 東京大学 社会科学研究所 教授 丸川 知雄

#### 16:50-17:00

閉会挨拶 京都大学 経済学研究科 准教授 田中 彰

#### 17:10-18:30

懇親会 参加費 2000 円(支援会会員は無料)

参加の御申込は、塩地 [shioji@econ.kyoto-u.ac.jp](mailto:shioji@econ.kyoto-u.ac.jp) 宛に、①会場名、②氏名・所属、③懇親会出欠を御連絡ください。シンポジウムの参加費は無料、懇親会は 2000 円です。ただし支援会会員は懇親会も無料です。

東京会場は定員 90 名、京都会場 200 名です。お早めにお申し込みください。

なお東京会場は会場が小さいため、御申込は支援会会員のみとさせていただきます。

支援会入会につきましては塩地までお問い合わせください。

## 即身仏を訪ねて－②日本編：新潟エリア

---

9.SEP.16

アジア・アパレルものづくりネットワーク代表理事

株式会社小島衣料オーナー

東アジアセンター外部研究員

小島正憲

### 1. 今、なぜ、「即身仏」なのか。 再録：(2015年10月15日記)

即身仏とは、厳しい修行の末に悟りを開き、その後、衆生救済を願って、自ら断食し命を断ち、生きながらにして仏になっていった仏教修行僧のことである。なお、仏教界では、生きている間に悟りを開くことを即身成仏といい、即身仏とは別に考えられている。また、仏教修行僧が自力で命を断ち、その姿を後世に留めるものを即身仏といい、死後、他力で人工的あるいは偶然に、その姿を後世に残したものをミイラという。日本には即身仏が17体（9体が山形エリアに、4体が新潟エリアに、岩手・福島・茨城・岐阜に各1体）、現存していると言われており、それらはなぜか東北地方に集中している。日本以外では、ベトナムや中国に即身仏が現存していると言われているが、あまり多くはないようである。一方、ミイラは、エジプトや中国（長沙の馬王堆）など世界各地に存在している。

日本は今、超高齢社会を目前にして、「今後の高齢者の身の処し方」を解決することが喫緊の課題となっている。またそのために高齢者自らの「死生観の確立」が急がれている。日本には、「檀山節考」に見られるような伝統がある。これを肯定的に見れば、かつての日本の高齢者のこの行為は、自らの生活共同体の存続を願って、自らの命を捧げて行くという気高い犠牲的精神の結果である。棄老とも呼ばれるこの習慣は、長野県の「姥捨て山」が有名だが、岩手県遠野市デンデラ野には、明治時代になるまで実際に残っていたという。私はこのことと、即身仏が東北地方に多いということは、無関係ではないと思う。

今回、私は自らの「高齢者としての死生観の確立」を目指して、即身仏をこの目で見てみたいと思い立ち、そのメッカである山形に赴いた。残念ながら時間の制約があって、9体のうち7体しか拝めなかったもので、残りの2体の即身仏には、来年、お目にかかりたいと思っている。また新潟エリアなどにも赴きたい。なお私は来年、毎月、プチ断食を行おうと思っているので、即身仏の思想を感覚的にも捉えやすくなると考えている。



## 2. 新潟エリアの即身仏リストと所在地

- ①大悲山観音寺 真言宗 即身仏拝観可  
住所：新潟県村上市肴町  
即身仏名：仏海上人
- ②鏡智山大圓寺 真言宗 即身仏は骨のみ  
住所：新潟市中央区新島町通3-2287  
電話：025-229-2439  
即身仏名：観海上人
- ③海雲山西生寺 真言宗 即身仏拝観可  
住所：新潟県三島郡寺泊町野積  
電話：0258-75-3441  
即身仏名：弘智法印
- ④寶珠山玉泉寺 真言宗 即身仏は焼失  
住所：新潟県東蒲原郡津川寺の前3245  
電話：0254-92-3287  
即身仏名：淳海上人
- ⑤観音寺 曹洞宗 即身仏は年1回の御開帳  
住所：新潟県東蒲原郡鹿瀬町菱潟  
即身仏名：全海上人
- ⑥妙廣山真珠院 真言宗 即身仏非公開  
住所：新潟県柏崎市西長島甲  
即身仏名：秀快上人



## 3. 新潟エリア「即身仏」調査報告

- ①大悲山観音寺 真言宗  
即身仏名：仏海上人 即身仏拝観可  
入定年齢：1903年 76歳  
出身階層：一般人  
入定方法：入定まで41年間五穀断ち・  
漆飲み 墓入定はできず  
入定動機：衆生救済のため即身仏になる



観音寺は JR 村上駅のすぐそばにあり、道路際に「即身仏 仏海上人 安置」の石碑があるので、すぐわかる。門の左右には立派な仁王像が立っているが、手入れが行き届いていないようで、かなり痛みが激しい。本堂内の左側に仏海上人の即身仏が安置されており、拝むことができる。またそこに入定の際に使用された箱形の木棺も展示されている。仏海上人の入定場所は、本堂の裏手にあり、これも拝観できるようになっている。



仏海上人は、湯殿山で苛烈な難行・苦行の末、靈感を得、山形の注連寺・本明寺・海向寺などの再興にも携わりながら、この寺に赴いた。その後、41年間、五穀を断ち、死ぬ数年前から漆を飲んで、死後、即身仏になりやすいように努め、自分で入定墓を作り、生きながらそこに入ろうとした。しかし「自殺行為」として警察に止められたため、遺言で、「3年後に発掘してくれ」と言い残し死去、その後墓に入れられる。ただし、その遺言による発掘も明治新政府の「墳墓発掘禁止令」で不許可となり、1961年になり、やっと学術調査の目的で発掘された。なお仏海上人は、現存する最新の即身仏である。仏海上人を拝むために訪れる人は、年間 10000 人ほど。

※東蒲原郡鹿瀬菱潟にも、同名の観音寺があり、そこにも即身仏の全海上人が祀られているので、間違えやすい。

## ②鏡智山大圓寺 真言宗

即身仏名：観海上人 即身仏は腐敗  
遺骨のみ安置 入定年齢：1878年 53歳  
出身階層：半農半僧  
入定方法：木棺で土中入定  
入定動機：衆生救済のため即身仏になる



大圓寺は、新潟港の近くの街中にある。玄関前に樹齢 200 年を超す大きなケヤキの大木があり、それが目印となる。事前に連絡をしておくと、住職の観海上人についての説明を受けることができる。

観海上人は、湯殿山での修行後、1969年に大圓寺にお勤め。即身仏になることを決意し、本堂の下に穴を掘り、木棺を埋め、そこに入定。入定後、10日間あまり、鈴の音が聞こえたという。寺の文書などが新潟大火などで焼失したため、発掘されることなく、そのまま忘



れ去られようとしていたが、近所の古老の話に基づき、テレビ局などの依頼により、1984 年に発掘調査に着手。本堂の下を掘ってみたところ、大きな石の下から木棺が出土。残念ながら、木棺内の観海上人は湿気のため骨のみとなっていた。現在、大圓寺には骨相学の専門家が、その骨から復元した観海上人の木造が安置されている。また本堂の畳を上げると、そこはガラス張りになっており、観海上人が入定された木棺の上に置かれていた大きな石を拝観することができる。

大圓寺の観海上人の即身仏について、私は書物やネットで、これまでその情報を目にしたことがなかった。今回、新潟エリア調査中に、偶然、ある真言宗のお寺の住職から、新潟市内に即身仏を安置している寺があるという話を聞き、大圓寺を訪ねてみた。大圓寺の住職の話によれば、「新潟エリアには、明治新政府の新法施行の影響で、密かに入定され、まだ知られていない即身仏があるのではないか」ということであった。



### ③海雲山西生寺 真言宗

即身仏名：弘智法印 即身仏拝観可

要拝観料：500 円 ※当寺の住職の説明によれば、法印と上人はほぼ同意語。

入定年齢：1363 年 82 歳 出身階層：下層武士

入定方法：入定堂

入定動機：入定して弥勒の下生を待つ

西生寺は、有名な弥彦神社の近くで、弥彦スカイラインを30分ほど走った静かな山中にあり、境内には日本海を望む展望台もある。また宝物堂には、弘智法印の木像や遺品だけでなく、良寛の書、加藤清正の書翰、乃木希典の書翰、谷文晁の落書き、円山応挙の屏風（西生寺表示）、などが展示してあり、一見に値する。入定堂では、住職から弘智法印についての解説を聞いた後、読経とともに、おごそかに御簾が上げられる中、即身仏を拝観することができる。



弘智法印は高野山で修行後、西生寺に帰り、ここで30000日のきびしい木食行（五穀・十穀断ち）を成し遂げ、1363年に66歳で、この寺の堂にて入定。1959年（昭和34年）、学術調査の結果、弘智法印の即身仏は、約600年前、60歳代の入定、現存する日本で最古のものと判明。

辞世の句は、「岩坂の主を誰ぞと人間わば 墨絵にかきし松風の音」。



なお西生寺は由緒もあるが、境内も広く、宝物堂なども備えられており、他寺とは違い、かなり華やかである。また宗派を問わず受け入れるという立派な永代供養墓「天翔園」を併設しており、うまく現代のニーズにも対応している。また「弘智法印肉身仏」と書かれた西生寺の立派なパンフレットもあり、信者数の多さをうかがわせる。

※情報によると、西生寺の近くに照明寺というお寺があつて、その三代前の住職の佐伯大弘という僧が、即身仏となることを希望して亡くなったので、縁者が遺体に炭を入れるなどの防腐処理をして安置しているという。残念ながら、その寺を確認することはできなかった。

#### ④寶珠山玉泉寺 真言宗

即身仏名：淳海上人 即身仏は焼失、遺骨のみ安置

入定年齢：1636年 78歳

出身階層：町人

入定方法：小廟に安置

入定動機：入定して弥勒の下生を待つ

新潟から磐越自動車道を1時間ほど東へ走り、津川ICで下り、津川の街中に入ると



玉泉寺がある。またすぐ隣に同じ真言宗の密蔵院がある。なお、玉泉寺の周辺には、淳海上人の入定標識などが一切ないので分かり難い。

1880年に寺が焼失し、淳海上人の即身仏も消失。現在は遺骨のみ安置。淳海上人は、高野山や湯殿山で修行後、隣の密蔵院の住職となり、ついで玉泉寺の住職となった。淳海上人は、1686年、78歳のときに、「肉身成仏はわが宗の願うところであるから、自分の遺体は火葬も土葬もせずに寺の東南に小廟を作って安置せよ」と遺言し、亡くなった。1880年の大火でその小廟も焼失したが、焼け跡から、遺骨や愛用していた数珠、仏具などが見つけ出され、現在はそれらが本堂内に安置されている。

※新潟から津川に向かう国道の中間付近に、同名の玉泉寺があるため間違えやすい。

#### ⑤観音寺 曹洞宗 (住職は村上市の長安寺と兼任のため、普段は無住寺)

即身仏名：全海上人

年1回：7月8日に御開帳

入定年齢：1687年 85歳

出身階層：農民



入定方法：地上入定

入定動機：衆生の安寧を祈願

津川から国道459号線を1時間ほど、くねくねした山道や狭く手ぼりのようなトンネルをいくつも抜けて走ると、菱潟の全海堂に着く。途中にはダムや滝などもあり、素晴らしい景色が続き、ときおり猿なども見かける。

全海上人は大柄な人で、農業のかたわら阿賀野川の筏乗りをしていたが、両親や妻子の死去を機に、1629年出家、湯殿山で18年間修行。その後、観音寺に勤めるかたわら、阿賀野川の改修に取り組み、タガネやツチなどで危険な岩場を削り取るなどの作業を、85歳で亡くなるまで続けた。その改修跡は、現在、ダム湖の底に沈んでいるということで、確認はできないという。全海上人は、3年間の五穀断ちの後、堂に籠もり、昼夜、端座、読経を続け、死を意識したとき、二人の弟子に、「わしはもうすぐ死ぬ。わしが死んでも埋葬してはならぬ。この端座のまま、即身仏として奉るように」と言い残した。全海上人は、現在に至るまで、その端座姿のまま即身仏として、本堂の右裏手の入定堂に奉られている。そのお姿は、毎年1回、7月8日に御開帳されている。観音寺の前には、全海上人が五穀断ち修行のうちに、いつも身を清めたという清水が、今でもこんこんと湧いている。



《行水用 清水》

⑥妙廣山真珠院 真言宗 即身仏非公開

即身仏名：秀快上人 高野山で修行

入定年齢：1780年 62歳

出身階層：町人

入定方法：地上石室内入定

入定動機：肉体はこの石室に留めて 何時

の世までも衆生を済度したい

永遠の生命を得て、弥勒の下生を待つ

柏崎市内から国道262号を経由して、柏崎越路線を東へ、車で約1時間走ると、真珠院がある。本堂と入定堂の間を道路が横切っており、最初に目に入ってくるのは、入定堂の石碑の方である。入定堂は、道路から山手へ車1台分しかない急な坂道を、数分、上っていったところにある。本堂は、入定堂の上り口を100mほど通り過ぎてから右に回り、道路を下っていったところにある。

秀快上人は、9歳のとき、真珠院の弟子となり、その後、真言宗の豊山派総本山長谷寺に20年間学び、帰郷して真珠院の住職を勤めた。50歳にして入定を決意、その後、12年間、五穀断ち修行。1780年3月1日、62歳で入定堂の石室へ入り、20日間、真言を唱え、五鈷杵を鳴



《 入定堂 》

らし、空海の命日と同じ3月21日に入定。

入定堂内には、正面に石室があり、その中に秀快上人の即身仏が安置されている。住職の話によれば、「秀快上人は石室内から、多くの民の安寧を祈願され、端座して弥勒の下生を待っておられ、ご開帳を希望されていないので、非公開にさせていただいている」とのこと。

#### 4. 即身仏を拝み悟ったこと

昨年、山形エリアの即身仏を訪ねてから約1年が過ぎた。その間、私は「死生観の確立」のために、多くの書物を読み、講演を聞いた。しかしそこから「死生観」を学び取ることはできなかった。多くの識者も、超高齢社会を前に、それを乗り切る「死生観」を生み出すことができず、手をこまねいている現状だと言えるだろう。現在、日本の喫緊の課題は、「使用済み核燃料の処理と**使用済み人的資源の処理**」だと言われている。もし、必要が発明の母だとするならば、日本発の「死生観」、つまり哲学・思想・宗教が生み出されることになるはずである。超高齢社会は、中国をはじめとする各国が、やがて直面する課題でもある。先陣を切って超高齢社会に突入した日本は、それを乗り切る哲学・思想・宗教を生み出し、多くの国に、範を示さねばならない。日本には、世界に誇る即身仏があり、姥捨て山やデンドラ野がある。私はそれらの先人の智慧から学び、日本発の「死生観」を確立することができるのではないかと思う。今



回は、新潟に足を運び、即身仏を拝み、「死生観の確立」に迫る努力をしてきた。

今回の調査で、新潟エリアには、日本最古の即身仏として西生寺の弘智法印があり、日本で最後の即身仏として観音寺の仏海上人があることがわかった。それだけでなく、「現在、新潟エリアには、即身仏が6体、確認されているが、まだあるのではないかと」と、私は思った。新潟市内の大圓寺では、入定した観海上人のことがほぼ忘れ去られようとしていたが、近所の古老の話から、住職が本堂の下を掘り返してみたところ、即身仏が発見されたという。このような事例が、他寺にもあるのではないだろうかと思うのである。新潟エリアの即身仏の入定年齢は、53歳から85歳であり、山形エリアと同じく、50歳以上であった。当時の50歳は超高齢者の部類に入っており、人生を十分に生き切った僧侶たちが、その最期を衆生の救済のために捧げるべく、即身仏となったと考えられる。それは即身仏の生前の行いや入定動機からも、十分に推察できる。おそらく、新潟エリアにおいては、僧侶たちの間で、即身仏になることが、「超高齢高僧の身の処し方の一つ」として、覚悟されていたのではないだろうか。

新潟エリアの即身仏も、入定前は五穀断ちを行っている。なかでも観音寺の仏海上人は、即身仏になりやすいようにと、漆を飲んだという。いずれも最後は断食に近い状態で、水のみで即身仏になっていったと思われる。巷ではリオ五輪ブームが一段落し、パラリンピックの報道がたけなわとなっている。かねてから私は、そろそろオリンピックの競技内容を大きく変更すべきではないかと、提言してきた。天然資源の枯渇や地球温暖化が大きな問題となっている今日、「たらふく食って、強さや速さを競う」方式は、時代の要請に逆行していると思うからである。現在、必要なのはエネルギー効率を競う方式、つまり少なく食べて、強く高くを競う方式である。あるいは一定量の食料で、どれだけ多くの人間が力を発揮できるかを競うような方式である。いよいよ数年後に、東京五輪を迎えるわけだが、福島第一原発の事故の完全収束はほど遠いし、使用済み核燃料の処理には、まったく手が着いていない状況である。超高齢社会日本の使用済み人的資源の処理も手つかずである。せめてオリンピックの裏行事として、福島第一原発付近で老人村を開村、そこで国際断食試合でも開催し、使用済みの二つの課題の処理の方向性を指し示したらどうだろうか。



## 【中国経済最新統計】

	① 実質 GDP 増加率 (%)	② 工業付 加価値 増加率 (%)	③ 消費財 小売総 額増加 率(%)	④ 消費者 物価指 数上昇 率(%)	⑤ 都市固 定資産 投資増 加率 (%)	⑥ 貿易収 支 (億ドル)	⑦ 輸 出 増加率 (%)	⑧ 輸 入 増加率 (%)	⑨ 外国直 接投資 件数の 増加率 (%)	⑩ 外国直 接投資 金額増 加率 (%)	⑪ 貨幣供 給量増 加率 M2(%)	⑫ 人民元 貸出残 高増加 率(%)
2005年	10.4		12.9	1.8	27.2	1020	28.4	17.6	0.8	▲0.5	17.6	9.3
2006年	11.6		13.7	1.5	24.3	1775	27.2	19.9	▲5.7	4.5	15.7	15.7
2007年	13.0	18.5	16.8	4.8	25.8	2618	25.7	20.8	▲8.7	18.7	16.7	16.1
2008年	9.0	12.9	21.6	5.9	26.1	2955	17.2	18.5	▲27.4	23.6	17.8	15.9
2009年	9.1	11.0	15.5	▲0.7	31.0	1961	▲15.9	▲11.3	▲14.9	▲16.9	27.6	31.7
2010年	10.3	15.7	18.4	3.3	24.5	1831	31.3	38.7	16.9	17.4	19.7	19.8
2011年	9.2	13.9	17.1	5.4	24.0	1549	20.3	24.9	1.1	9.7	13.6	14.3
2012年	7.7	10.0	14.3	2.7	20.7	2303	7.9	4.3	▲10.1	▲3.7	13.8	15.0
2013年	7.7	9.7	11.4	2.6	19.4	2590	7.8	7.2	▲8.6	5.3	13.6	14.1
2014年	7.4	8.3	12.0	2.0	15.2	3824	6.1	0.4	4.41	14.2	12.2	13.6
4月		8.7	11.9	1.8	16.6	185	0.8	0.7	0.5	3.4	13.2	13.7
5月		8.8	12.5	2.5	16.9	359	7.0	-1.7	8.4	-6.6	13.4	13.9
6月	7.5	9.2	12.4	2.3	17.9	316	7.2	5.5	10.3	0.2	14.7	14.0
7月		9.0	12.2	2.3	15.6	473	14.5	-1.5	14.0	-17.0	13.5	13.4
8月		6.9	11.9	2.0	13.3	498	9.4	-2.1	5.2	-14.0	12.8	13.3
9月	7.3	8.0	11.6	1.6	11.5	310	15.1	7.2	9.4	1.9	11.6	13.2
10月		7.7	11.5	1.6	13.9	454	11.6	4.6	8.7	1.3	12.1	13.2
11月		7.2	11.7	1.4	13.4	545	4.7	-6.7	-8.6	22.2	12.0	13.4
12月	7.3	7.9	11.9	1.5	12.6	496	9.5	-2.3	6.1	10.3	11.0	13.6
2015年	6.9	5.9	10.7	1.4	9.7	6024	-9.8	-14.4	11.0	0.8	11.9	15.0
1月				0.8		600	-3.3	-20.0	2.2	-1.1	10.6	14.3
2月				1.4		606	48.3	-20.8	49.8	0.1	11.1	14.7
3月	7.0	5.6	10.2	1.4	13.1	31	-15.0	-12.9	0.3	1.3	9.9	14.7
4月		5.9	10.0	1.5	9.6	341	-6.5	-16.4	2.9	10.2	9.6	14.4
5月		6.1	10.1	1.2	9.9	595	-2.4	-17.7	-14.0	8.1	10.6	14.3
6月	7.0	6.8	10.6	1.4	11.6	465	2.8	-6.3	4.6	1.1	10.2	14.4
7月		6.0	10.5	1.6	9.9	430	-8.4	-8.2	9.6	5.2	13.3	15.7
8月		6.1	10.8	2.0	9.1	602	-5.6	-13.9	23.9	20.9	13.3	15.7
9月	6.9	5.7	10.9	1.6	6.8	603	-3.8	-20.5	5.2	6.1	13.1	15.8
10月		5.6	11.0	1.3	9.3	616	-7.0	-19.0	2.5	2.9	13.5	15.6
11月		6.2	11.2	1.5	10.8	541	-7.2	-9.2	27.7	0.0	13.7	15.3
12月	6.8	5.9	11.1	1.6	6.8	594	-1.7	-7.6	17.2	-45.1	13.3	15.0
2016年												
1月			10.3	1.8	18.0	633	-11.5	-18.8	14.1	-2.1	14.0	15.2
2月			10.2	2.3		326	-25.4	-13.8	-11.3	-1.3	13.3	14.7
3月	6.7	6.8	10.5	2.3	11.2	299	11.2	-7.4	26.1	4.0	13.4	14.7
4月		6.0	10.1	2.3	10.1	456	-2.0	-10.5	21.4	2.9	12.8	14.4
5月		6.0	10.0	2.0	7.4	500	-4.7	-0.1	43.6	-4.8	11.8	14.4
6月	6.7	6.2	10.6	1.9	7.3	479	-6.1	-9.0	8.5	4.4	11.8	14.3
7月		6.0	10.2	1.8	3.9	502	-6.4	-12.9	-3.8	-6.2	10.2	12.9

注：1. ①「実質 GDP 増加率」は前年同期（四半期）比、その他の増加率はいずれも前年同月比である。

2. 中国では、旧正月休みは年によって月が変わるため、1月と2月の前年同月比は比較できない場合があるので注意されたい。また、（ ）内の数字は1月から当該月までの合計の前年同期に対する増加率を示している。

3. ③「消費財小売総額」は中国における「社会消費財小売総額」、④「消費者物価指数」は「住民消費価格指数」に対応している。⑤「都市固定資産投資」は全国総投資額の86%（2007年）を占めている。⑥—⑧はいずれもモノの貿易である。⑨と⑩は実施ベースである。

出所：①—⑤は国家统计局統計、⑥⑦⑧は海関統計、⑨⑩は商務部統計、⑪⑫は中国人民銀行統計による。